

AMAKUSA MARINE RESORT TAKE OFF



吉永実行委員長



久々山本渡市長

プログラム

平成2年12月1日(土)

- 12:30 開 場
13:20 オープニング
メッセー
主催者あいさつ
歓 迎 挨 拶

熊本県知事 細 川 護 熙
天草考創シンポ実行委員会委員長 吉 永 征 輝
本渡市長 久々山 義 人

- 13:40 第1部
天草方式による地域おこしの提唱
基調講演

「証券化で地元主導の開発を」

筑波大学教授 宮 尾 尊 弘

コメント討論

■ トーカー 佐藤 誠・松中祐二・中田 稔

ブレイク

- 15:10 第2部
空港を軸とした地域のテイク・オフ
基調講演

「コンピューター航空・これからの課題」

大阪産業大学教授 今 野 修 平

パネルディスカッション

「コンピューター空港とリゾートづくり」

■ コーディネーター 宮 尾 尊 弘
■ アドバイザー 今 野 修 平
■ パネリスト 佐 藤 誠・坂 田 守
梅 川 正・笠 喜 人

- 会場 本渡市東町
本渡市民センター
● 参加者 750人
うち島内 670人
島 外 50人
県 外 30人

- 17:10 アトラクション「牛深ハイヤ」
17:25 「天草宣言採択」
17:30 閉 会
18:00 ウェルカムパーティー(2F大会議室)

天草の味をまるごとお楽しみ下さい。



天草を考え天草を創る地域シンポジウムのような

天草宣言

私たちは、新しい時代の幕開けにあたって、「天草を考え天草を創る地域シンポジウム」を春夏秋冬、4回にわたって開催した。その中で、次のことを深く認識し強く確信した。

1. さまざまな意見をもった人たちが率直に話し合い、新しい地域づくりに対しての合意形成とその実践に努力することが必要である。

つまり、話し合いの場とルールをつくり、産・学・行政など各界各層の人たちが地域の将来像と現実の問題について、一つのテーブルで話し合う機会をもち、それを進めるなかでお互いの信頼関係を生み育てていく。

2. 他人^{ひと}まかせではなく、自分たちが主体的に地域おこしをしているという意識をもって行動することが重要である。

そこで、広くヒト・モノ・カネ・情報などの資源を活用し、新しい開発手法も積極的に取り入れ、人びとの夢の実現に向け、皆が考え努力するような態勢を整える。

3. 自分たちの誇る地域の自然を賢明かつ合理的に活用し、持続可能な社会を実現するよう努力することが必要である。

さらに国際的な地域間交流と行動を通じて、地域人であると同時に地球人であるという自覚をもち、自然と人間性を尊重した生き方を心がけ、その意向に沿った地域デザインなどの研究活動を地元主導で推進する。

以上のようなシンポジウムの成果をふまえ、次のステップとして、地元主導の活動母体となる組織を発足させ、天草の将来像に関する意見調整と調査研究を行い、実現可能性のある提案を示し、その実施のプロセスに積極的に参加していく。

私たちは、このような運動をとおして、天草の尊い自然と伝統ある文化を蘇らせ、世界に開かれた新しい天草づくりに邁進することをここに宣言する。

1990年12月1日

天草考創シンポ実行委員会
天草考創シンポ参加者一同



宮尾先生を中心とした東京のハートストック研究会メンバーとの交流

「地元主導の開発を」

天草地域
シンポジウム
宣言採択して閉幕



約700人を集めて開かれた「天草を考え天草を創る地域シンポジウム PARTⅣ」の会場

「天草を考え天草を創る地域シンポジウム」が、日、本渡市民センターで約七百人を集めて開かれ、地元主導の新しい天草づくりを誓う天草宣言を採択。四月から四回シリーズで実施した同シンポの幕を閉じた。同シンポ実行委（委員長・青永征輝、天草経済同友会会長）主催。

第一部では同シンポの進行役を務める宮尾尊弘・筑波大教授が「証券化で地元主導の開発を」と題して基調講演。これを受けて佐藤誠・熊大教授が「都会と田舎の共通の入会地をつくれぬか。新しい農地の再生

の道を模るべき」と提言。地元代表の松中祐二氏（養殖業・河津町、中田裕氏（商業・大矢野町）が開発への

不動産の証券化で資金づくりを

宮尾尊弘・筑波大教授
地元主導で望ましい開発を行う資金づくりの手法として、不動産の証券化が考えられる。例えば天草開発のプラン、デザインからビジネスまで手掛ける民間株式

コミュニティの成否は生活水準に

今野修平・大阪産業大学
教授 コミュニターはジェット航空を補完する役割として脚光を浴びているが、課題は採算だ。天草―熊本路線もバスとの競争は難しい。だが将来天草の生活水を

の地元の主体性を強調した。天草宣言では①産・学・行政の各界が話し合う場をもって地域づくりの合意形成をする②自然と人間性を尊重した地域デザインなどの推進―とこれまでのシリーズを総括。自然と文化を蘇（よみがえ）らせる天草づくりを提言している。

第二部では今野修平・大阪産業大学教授が「コミュニティ航空・これからの課題」と題して基調講演。佐藤教授や坂田守・本田航空社長、地元代表の棚川正氏（農業・本渡市、笠置人民商業・天草町）を交え討

会社をつくり、社債・株を公開する。

一方、インフラ整備など公的な分野でも当該の地権者に限、市町村レベルで事業収益などを約束する「フラスサム」の真価や土地公開といった地方債を発行してはどうか。

講演要旨

準が上げれば利用者の時間に対する考えが変わる。

つまり住民にとってコミュニティの課題とは、いくつかの所得が高くゆとりをもち、文化水準の高い天草にするか、ということだ。コミュニティによって「時間を買う」概念も生活に根づ

くだろう。またフライト農業など新たな戦略産業の展開も可能になる。

こうした民間の不動産証券化と地元の地方債が共同歩調をとることで官民対等の立場で開発が進められる。課題は下からの運動の盛り上がり。当シンポの延長上に、開発と環境をデザインする組織づくりが望まれる。

天草空港 離陸へ

運輸相が
設置許可
6年度末には開港

[illegible]

「これをどうしてやろうか」

[illegible]

▲平成2年12月27日
熊本日新聞記事

天津租界における英通文通休養の點として、空海建設工事が着工され品民の期待はますます大きく膨らんで参りました。叶道から澄正まで、多大な文交運を隔りました張公諸君ははじめ張橋機關の方に厚情なる謝意を表します。

さらに高麗産の熟練技術につきましても、専門家に委託して研究を頂いておりますが、コミュニティー航空運営の難しい現状にかんがり地元としてしましても行政、産業振興団体一丸となって需要の拡大に貢献に取り組んでいる処でございます。

先づ、運輸に對する航空交通の發展を要する航空交通の設備についてこの要望申上げましたが、今後、新しい航空ビジネスの開発と首都圏への日帰りダイヤなど利用促進を図るために、常陸道の延長（巻貝一、二〇〇米以上）、航空車のアップ、我國の離着陸を可能にする照明施設、航路標識の設置が是非必要であると思ひいたします。

又、空港が渾然に地境に横ざし、やがて極東アジアにおける小規模の基地として、町おこし国際化の拠点になり得ます。格段のこの地と沿道路の延長及び安全就航施設の設置についてご要望申し上げます。

平成五年九月十六日

天
車
市
町
長
金
金
金

冬山義人

天華地產航空園發展公司

冬山藏人

天草海浜リゾート施設建設推進協議会

冬山義人

天惠經濟同友會

吉永征輝

あまぐさタリーンアガサー

中川竹治

熊本県知事
福島謙二
校

主な取組み⑤

天草経済開発同友会・創立40周年記念事業

天草藻類バイオマス事業

概要

天草経済開発同友会は、筑波大学渡邊 信教授の提唱される「藻類バイオマス」に着目し、平成23年10月の役員会に於いて、創立40周年記念事業として取り組む承認を得、調査・研究を開始しました。

【バイオマス(biomass=生物bio+物質の量mass)とは、元来は「生物現存量」を意味します。生体活動に伴って生成するもの、または生態学の分野で植物、微生物体の有機物を物量換算した量を表わす言葉でしたが、石油ショック以降は「エネルギー源としての生物資源」の意味を含むようになりました。

バイオマスを用いた燃料は「バイオ燃料」と呼ばれ、バイオマスから得られるエネルギーを「バイオエネルギー」、または「バイオマスエネルギー」といいます。バイオマスが燃焼することにより放出されるCO₂は、生物の成長過程で光合成によって大気中から吸収されたCO₂です。化石資源由来のエネルギーや製品をバイオマスで代替することによって、地球温暖化を引き起こす温室効果ガスの一つであるCO₂の排出削減に大きく貢献することができま

す。近年の原油価格の高騰や地球温暖化への意識の高まり、また原子力発電所事故に起因する脱原発の動きから、新たな再生可能エネルギーとして、微細藻類が産生するオイルなどの「藻類バイオマス」の活用に注目が集まっています。

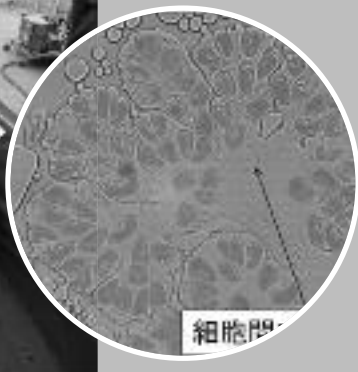
微細藻類は、一般的には水中に存在する顕微鏡サイズの藻で、その多くは植物と同様に太陽光を利用し、二酸化炭素を固定して炭水化物を合成する光合成を行い、代謝産物としてオイルを産生します。

微細藻類によるバイオ燃料は、植物由来のバイオ燃料に比べて、桁違いに生産効率が高く、またトウモロコシなどのように食品利用との競合もないため、次世代バイオ燃料として大変注目されています。今後、大量培養技術が確立されれば、日本を産油国にすることも夢ではありません。】

ポトリオコッカス培養プール



ポトリオコッカス



平成24年1月31日、藻類バイオマス研究に於いて、日本の第一人者である、筑波大学渡邊 信教授の研究室を訪問する機会を得、安田公寛天草市長、大塚基生天草市議会議員、中川竹治会長他3名で出向き、藻類バイオマスの現状や展望等のお話をお伺いすることができました。又、天草での講演をお願いいたしましたところ、渡邊教授に快諾いただきました。平成24年3月3日(土)、天草経済開発同友会創立40周年記念事業、第一弾、「天草考創講演会」～天草を創り、天草を考える講演会～として開催することが決定しました。

平成24年3月2日、渡邊教授(途子奥様・唯子お嬢さん・楠田事務局員)御一行をお迎えし歓迎会を開催。3月3日講演会当日は、午前中に天草市し尿処理施設を見学及び施設説明をおこない、午後には苔北火力発電所の視察を実施し、天草に於ける藻類バイオマス活用の可能性を探る研修をおこないました。

午後7時より、講演会を開催しました。

■講師 筑波大学生命環境科学研究科